

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0270101553		
法人名	有限会社青森福祉サービス		
事業所名	グループホーム上磯		
所在地	〒030-1272 青森県青森市小橋字田川93番地1		
自己評価作成日	平成25年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年10月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>各利用者の潜在能力を引き出し、趣味や日中の活動に活かし、有意義な生活を送れるよう支援しています。また、ドライブ・行事(季節に合わせた社会見学)を積極的に行い、自立支援に向けた声掛け雰囲気作りを心掛け援助しています。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

<p>開設から約10年以上経過されたホームであり、開設当初からの利用者も健在である。地域とホーム間は祭りなどの行事を通じて交流も盛んであり、地域に根ざしていることが伺われる。採光の明るいホールでは職員の活気ある声掛けと利用者との会話が多く聞かれ、ホーム内は利用者と一緒に作った「壁画」や季節の花が飾られて楽しい雰囲気である。職員間のコミュニケーションも良く、業務の合間でも利用者の情報共有の場になっている。利用者も家族も安心して過ごせるような配慮が多く見られる。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が見える場所に理念を貼り、常に確認し職員会議等で話し合い、日々のケア実践に取り組んでいる。	職員の目に入りやすい場所に掲示しており、職員は周知している。理念については、会議の場だけでなく日頃から話し合い相談し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、事業所の行事に地域の方が参加され交流を図っている。納涼祭には各戸にチラシを配布して、前年度より多くの地域の皆さんの参加があった。また、広報誌の配布や回覧板を利用しグループホームの活動や日常生活を紹介している。	地域の盆踊りやお祭り、敬老会に参加し、地域との交流を図っている。また積極的にホームの夏祭りに参加するように働きかけて、参加者が多く盛り上がる。地域在住の職員もあり、交流は活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回地域に発行している広報誌に認知症の情報や支援方法を記載し理解を深める機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域町会長・民生委員・駐在所・包括支援センター・家族等と話し合いサービス向上に努めている。	町会長・市職員や包括センター職員が参加して、外部評価報告・行事案内やホーム運営について話し合いし、参加が少ない方には呼び掛けている。職員会議で内容を報告して周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に相談に行き、助言を受けながら考え方を共有し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市や包括支援センターに相談に出向いている。何かあるとホーム内で判断しないで相談するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、夜間帯に限り外部からの安全面を考え、玄関の施錠を行っている。	身体拘束については会議の場で話し合ったり、マニュアルが整備されている。やむを得ない事情があって拘束(ミトン)した時は、事前に家族に文書で説明して同意を頂いている。また内部・外部研修に参加した職員が会議で発表し、職員全体で周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修に参加し、確認し合いながら防止に努めている。また、日常的に声を掛けながら、虐待や疑わしい行為をすることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修に参加し、職員会議等で話し合い理解を深めている。現在、制度を利用されている方には、これからも円滑に利用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解除に至る場合は、本人を交えて家族との十分な話し合いをし、理解・納得していただけるよう努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加や苦情箱の設置、苦情ノートを活用またアンケート用紙の利用により家族の意見や要望を出していただく機会を作っている。	今まで苦情箱に意見が入っていたことはない。家族の面会時に、ノートを渡して書き込みをお願いしている。利用者からの訴えも記入し、その改善策を講じている。年間計画の際に報告している。	意見等があった際は、ホームで配布している広報紙を活用し、他の家族等にも報告されることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、主任会議・職員会議を行い、管理者は職員の意見や提案を聞いている。	主任会議内容は職員会議の場で報告し意見を求めている。ケアの内容などのことも相談して指示をもらうこともある。意見が出ないからと、職員会議の際に司会を順番で行い、発言しやすい環境作りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績のある職員、努力している職員には資格取得の研修を受講させ、格付けを上げると共に基本給のアップ、手当の支給をしている。労働時間はオーバーしないよう1ヶ月単位の変形労働時間割を作成しチェックしている。また、職員の休憩室を設け環境設備などにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員が法人内外の研修を受ける機会を確保し進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は職員が同業者と交流する機会を作り、進んでサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、本人・家族と共にアセスメントを取り、不安や要望を傾聴し本人が安心して生活できるサービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始の際は、本人も含めて契約書と重要事項を説明し了承を得ている。その際、不安や要望を傾聴し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始するにあたり、本人・家族等から今すぐにしてほしいことをアセスメントし確認し合いながらケアプラン作成に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で本人が今まで経験してきた知識を職員も学び活かしてより良い関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を面会時や2ヶ月に1回の報告書で状況・変化・思いを伝え、起こり得るリスクについても相談し合いながら、支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から聞いた思い出話をしたり、面会時一緒に写真を取ったり、家族から送られてきた手紙や写真等を居室に飾って、馴染みの関係が途切れないようにしている。	地域に出向く希望があれば対応しているが、地理的に時間がかかる時は、家族にお願いして外出することもある。近隣者の面会もあり、交流が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日ホールで一緒に食事をしたり、行事等の参加を促し、利用者が孤立する事が無いように職員が間に入りよい関係作りに努めている。また、ホールで利用者同士で悩みの相談をし合ったり、職員と一緒に解決策を講じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、いつでも必要に応じて相談や支援することを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人から思いや意向を伺っている。困難な場合は、日々の生活や生活歴などから本人本位に検討している。	「自分の役割を持ちたい」「ホームに早く慣れたい」などの具体的な言葉をケアプランに反映させている。生活歴などから性格を探り、合った内容の役割をお願いしたり本人本位の思いや意向を把握し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から、プライバシーに配慮しながら情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日介護日誌や申し送りノートなどの利用、気づいた事を職員間の話し合いにより情報を共有し確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回モニタリングを行い本人本位の介護計画作成に努めている。状態が変化した場合はカンファレンスを行い、現状に即したケアプランができるように努めている。	定期はもちろん、退院や本人の状態に変化が生じた時もモニタリングを実施し、プランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践状況や気づきの内容をニーズやサービス内容ごとに番号を振り、毎日のケース記録と共に書き記すことで評価を行う際に見直しを行いやすくしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態悪化時には主治医への上申により指示を仰いでいるが、本人や家族の希望や状態に合わせて、主治医以外の専門医への受診も柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議ではホーム内の現状報告し、避難訓練などのときは地域の方や消防団の方と一緒にやっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の有無を確認し、受診を続けられるよう支援している。状態の変化に合わせて往診を検討し、適切な支援を行っている。	かかりつけ医を希望する方は家族対応となり、他は往診での受診となっている。往診を受けるようにしてからは、入院や時間外の受診がスムーズに行われ、体調不良時は病院から指示をもらい、職員も安心している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に体調の変化がある時は、電話でかかりつけ医の看護師やホームの看護職員に相談し指示を仰ぎ適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活状況の情報を病院関係者に伝え、入院しても安心して過ごせるように支援している。また、医療機関や家族の情報を共有しながら今後の対応についても報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族へ終末期に向けたケアの取り組みについて話している。重度化に伴って段階を踏んで主治医を含めた話し合いの機会を持ち、家族の意向に沿ったケアを行えるように支援している。	これまでに2人の看取りを行った。看取りを行う際は詳しく家族に説明して、意向を確認し同意を得ている。主治医・家族を含めてカンファレンスを行い、病院との連携やホームの役割を確認し対応している。終末期には家族もホームに泊まっていたりすることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回避難訓練、救命講習を行い、全職員が対応できるようにしている。また、緊急時マニュアルを作成し確認し合い、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年3回行い、マニュアルを作成している。また、夜間を想定した避難訓練も行い、地域の消防団の協力を得ている。	火事や地震を想定した避難訓練を実施している。年に1度は地域の消防団も参加している。緊急時のマニュアルを整備し、万に備えて缶詰やラーメンなどの非常食の用意やストーブを購入し、発電機の購入も検討している。	すぐに手に取って見れるように、文字を大きくするなどマニュアルの工夫をされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保しよく	プライバシーに関する勉強会を行っている。また、常日頃から利用者の人格やプライバシーを損ねる事のないようお互いに注意し合っている。	トイレの声掛けは利用者のすぐそばで行う、入浴時は戸を閉めるなどの配慮をしている。外部研修で学んだことを職員会議の場で報告して、職員全体で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれが発言の機会を多く持てるようにするため、得意とする活動に参加していただくよう配慮している。買い物等により自己決定できるよう声掛けをしている。普段から話しやすい雰囲気作りを心掛けている。また、外気浴やドライブの希望もあり実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの生活状況を職員が把握し、状況に応じて離床時間や食事のタイミングをずらすようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理・美容師の来所時に本人や家族の好み、希望を伝えている。希望に応じてこだわりのシャンプー、毎日の化粧品やヘアートニックを使用し髪をブローしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提供している食事についてのアンケートを行い、希望や好みには近づける努力をしている。また、2種類の主菜から選ぶことのできる「セレクト給食」や行事時には、buffet式の食事を楽しんでいただいている。	年2回食事アンケートを実施し、メニューに反映させている。ホームの畑で採れた野菜を使ったり地元のメニューを取り入れている。野菜の皮むき、おやつ作りなど利用者と一緒にいき、楽しく食事できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態に合わせて、食事の形態を変えている。必要に応じ摂取量をチェック表にまとめている。また摂取量の少ない方については食事時間以外にも摂取できる時間を見計らって摂取を勧めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの利用者様に声掛けし、毎食後の口腔ケアを行っている。必要に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用して各利用者の排泄パターンを把握するように努めるとともに、定期的な声掛けをし、自立した排泄ができるよう自立支援に努めている。	個人のパターンを把握して、事前にトイレに誘導している。失禁しないように配慮された対応で、利用者の自信に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態に合わせ水分の摂取量、食物の形状の工夫や食物繊維のある食事の提供で予防している。レクリエーションでの運動などの取り組みもしているが、どうしてもスムーズでない方には主治医に相談し、下剤の処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は週3回行っている。各棟の入浴時間や曜日をずらす事で、希望時は、他棟の入浴日であっても毎日いつでも入浴可能な体制をとっている。	大きな浴槽で数人で一緒に入れることで喜ぶ方もいる。週に2回は入浴できるように対応し、拒否する方は時間をずらして促すと入浴されている。体調不良などで入浴できない方は清拭や足浴で代替対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて、居室やソファで休めるよう支援している。夜間状況などを申し送り、職員全員が把握する事で日中に様子をしながら休憩を勧める声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師から薬剤について説明を受け、日誌や申し送りノート、ケース記録などに記載する事で職員全員が情報の共有、把握に努めている。変化がみられた時は、その都度主治医や薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの生活歴や家族からの情報を収集し得意な活動を活かした役割を持っていただくようにしている。買い物では希望を聞き、それぞれの好みに合わせた嗜好品を購入している。また、畑を見に行く事で気分転換を図り、収穫を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少なくとも、2ヶ月に1回は買物や1ヶ月に1回のドライブなど外出の機会を持ち、また、本人の希望を家族に伝え、一緒に外出を楽しんでいただいている。	家族との外出の他にも訴えがあれば都度対応している。外出する時は他の方も誘って行くこともある。紅葉やドライブ、好きなソフトクリームを食べながら外出できることで利用者は喜んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の方法や本人に持っていただくお金の額など家族と相談している。本人の残存能力に応じ、お金の管理を行っていただくよう支援している。6ヶ月に1回程度で、家族に残金を確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りや利用者の写真、作成した作品などを掲示している。テレビや音楽の音量を調整し、うるさくないように配慮している。カーテン、ブラインド、エアコン(ホール・各居室)などで光や温度の調節を行い、快適な空間作りに努めている。温度・湿度については記録に残している。	季節感のある「山柿」「もみじ」「ブドウ」などが色彩豊かにホーム内の壁に飾られ、楽しく過ごせる環境作りをしている。温度、湿度も配慮し、居心地良くホールで多くの利用者が過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望に応じ、個室でテレビを見たりと一人の時間を楽しんでいただくようにしている。また、ホール・廊下に設置したソファでは数人で集まり、楽しく会話したりしていただいている。時には職員も交え、ゆったりと過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、使い慣れた小物や馴染みの人物やペットが写った写真を持参し飾っている。	自室内は自宅で使っていたテーブルや家電を持ち込み、使いやすくしている。位牌のある方は朝にご飯をあげることもでき、満足している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を自操している方や歩行器を使用している方も自由に移動できるよう家具の配置に配慮している。 トイレの場所まで手すりがついており、常に職員が見守りを行い、安全を確保している。		